PART 1 全体の調査結果

第2章 母親の家事・育児・教育に対する意識

相馬　直子

第1節 子育て観

子育てと自分の生き方とで揺れる母親の心理は各都市共通。一方で、大学進学に対する意識は各都市間の特徴を表している。東京は約7割が「大学進学や学校名にはこだわらない」のに対して、北京や上海の約7割は「世間で名の通った大学」を重視するという、対極の様相が明らかになった。

現在の日本では、都市部での孤立した子育て環境による母親の育児不安・ストレスが社会問題となっている。加えて、少子化の進行にも伴い、子育て支援がますます重要になっている。こうした状況のなかで、日本の都市部の母親は、家事・育児・教育に対して、どのように考え、どのような不安を日々感じているのだろうか。それは、同じ東アジアにおける都市部の母親と比較して、どのような特徴があるだろうか。本章では、①育児・教育に対する意識、②子どもの将来に対する期待、③子育てで力を入れていること、④子どもの進学に対する期待、⑤子育てに対する意識、⑥現在の生活と子どもの成長への満足度に分けて、概観することとしたい。

子育てと自分の生き方との狭間で：母親の微妙な心理

まず、子育てに関する対照的な意見（以下A・B）のうち、どちらが自分の気持ちに近いかをたずねてみた。

「A．子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい」か、「B．母親がいつも一緒でなくても、愛情をもって育てればいい」と感じているか。**図2－1－1**①からは、どの都市でもAの意見を選択した母親が、Bの意見よりも多いことがわかる。

この結果から、「3歳くらいまでは母の手で」と子育てに専念したい母親の姿が想像されるかもしれない。しかし、実際はこのように一枚岩ではない。すなわち、「A．子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」か、「B．子どものためには、自分ががまんするのはしかたない」かをたずねたところ、Aの意見を選択した母親がBを上回っている（**図2－1－1**②）。「子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい」と思いつつ、同時に「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」という、子育てと自分の生き方の狭間にある母親の微妙な心理がうかがえる。

こうした母親の微妙な心理は、各都市で濃淡がある。東京は「A．子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい」が63.4%、「B．子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」が64.4%であるが、ソウルは前者が74.9%、後者が52.7%であり、東京とそれぞれ10ポイント前後の差がある。

教育に対する考え方：各都市で共通点の多い2項目

つづいて、子どもの教育により焦点をあててたずねてみた。まず、各都市で違いがあまり大きくない2項目からみてみよう。

第一に、「A．子どもは生まれつき能力が決まっていると思う」か、「B．子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う」かについて、各都市共通で、80%以上が「B．子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う」と考えている（**図**

2－1－1③)。

第二に、「A．子どもの教育について、親が判断して選ぶのがよい」か、「B．子どもの教育について、子どもの自主性を重んじるのがよい」か。東京では71.4%が「B．子どもの教育について、子どもの自主性を重んじるのがよい」を選択しており、ソウル・北京・上海も同様に70%前後の回答である。台北は54.5%と最も低く、東京とは約17ポイントの差がある（**図2－1－1④**)。

教育に対する考え方：各都市の相違点が浮上した3項目

上記と対照的に、各都市で特徴がみられたのは次の3項目である。

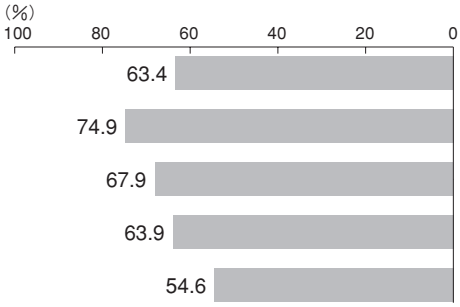
第一に、「A．わがままを言ったら、厳しくしかりつけるのがよい」か、「B．わがままを言ったら、分かるまでやさしく言い聞かせるのがよい」か。東京は70.2%が「B．わがままを言ったら、分かるまでやさしく言い聞かせるのがよい」と答えており、数値的には北京（92.9%）とソウル（30.0%）の間に位置している（**図2－1－1⑤**)。これは、各都市での親子規範の差異、とくに、目上の親としての厳格な意識が残っているソウルの特徴があらわれているように思われる。

第二に、「A．文字や数はできるだけ早くから教えるのがよい」か、「B．文字や数は子どもが関心を持つようになってから教えるのがよい」か。東京は86.2%が「B．文字や数は子どもが関心を持つようになってから教えるのがよい」と答えており、各都市の中で最も比率が高く、就学前の文字や数の習得に対する態度では台北（56.3%）と約30ポイントの差がある（**図2－1－1⑥**)。

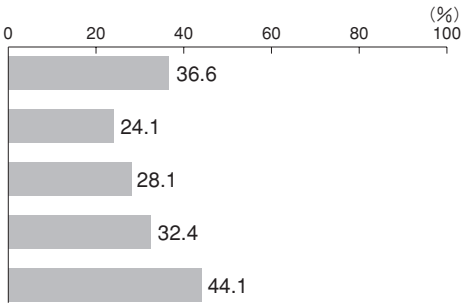
第三に、「A．世間で名の通った大学に通ってほしい」か、「B．大学進学や学校名にはこだわらない」か。これは最も都市別の差異が大きい項目であった。東京は73.1%が「B．大学進学や学校名にはこだわらない」と答えており、次いで台北（65.2%）、ソウル（57.3%）と続く。一方で、北京と上海は東京と対極であり、70%以上（上海79.3%、北京74.1%）が世間で名の通った大学への進学を重視している（**図2－1－1⑦**)。

■図2－1－1　子育て観

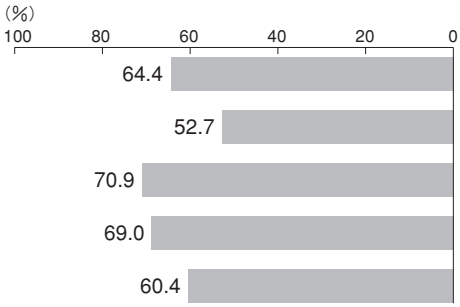
① A．子どもが3歳くらいまでは母親がいつも一緒にいた方がいい



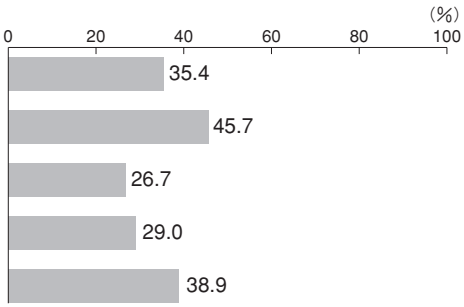
B．母親がいつも一緒でなくても、愛情をもって育てればいい



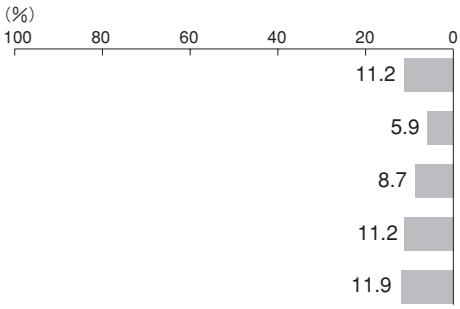
② A．子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい



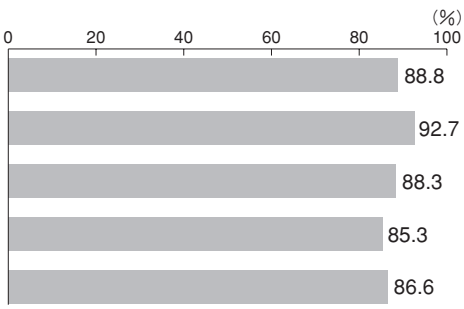
B．子どものためには、自分ががまんするのはしかたない



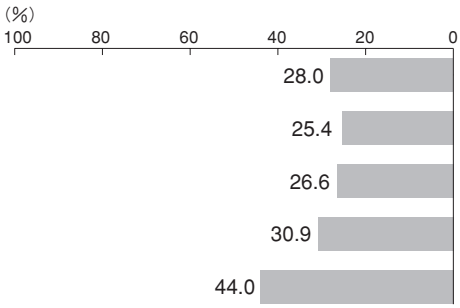
③ A．子どもは生まれつき能力が決まっていると思う



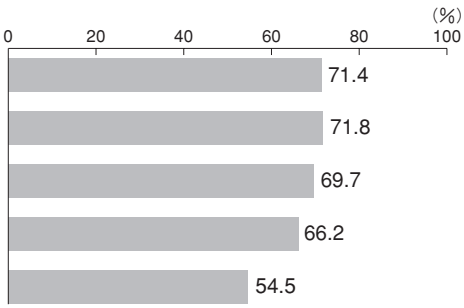
B．子どもは育つ環境によってどのような能力も伸ばせると思う



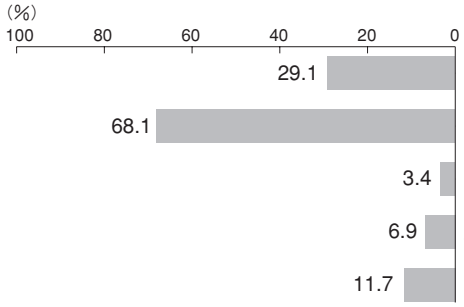
④ A．子どもの教育について、親が判断して選ぶのがよい



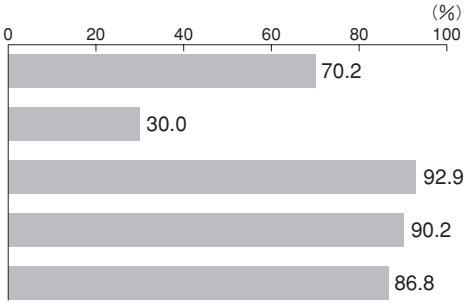
B．子どもの教育について、子どもの自主性を重んじるのがよい



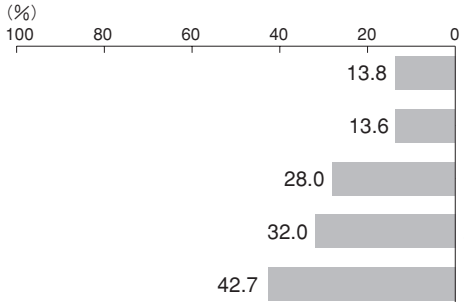
⑤ A. わがままを言ったら、厳しくしかりつけるのがよい



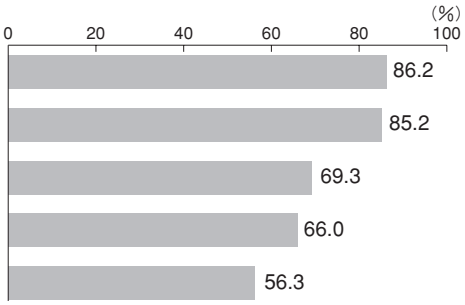
B. わがままを言ったら、分かるまでやさしく言い聞かせるのがよい



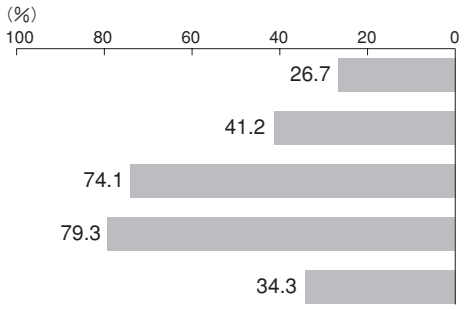
⑥ A. 文字や数はできるだけ早くから教えるのがよい



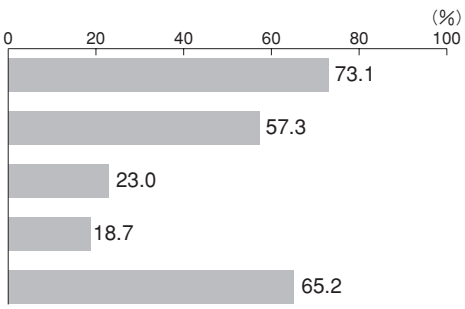
B. 文字や数は子どもが関心を持つようになってから教えるのがよい



⑦ A. 世間で名の通った大学に通ってほしい



B. 大学進学や学校名にはこだわらない



注1）母親の回答のみ分析。
注2）無答不明があるため、Aの意見とBの意見の数値を合計しても100%にはならない。
注3）サンプル数は、東京 989人、ソウル 874人、北京 707人、上海 709人、台北 1842人。

第2節 子どもの将来に対する期待

東京では、「友人を大切にする人」「他人に迷惑をかけない人」「自分の家族を大切にする人」の３項目にそれぞれ約７割の回答が集中している点が特徴的。東京以外の都市では、「自分の家族を大切にする人」（約７～８割）に回答が集中している一方で、その他は各都市で散らばりがある。

前節では、育児や教育に対する大きな考え方が、各都市でどのような特徴があるのかを確認した。ここではもう少し焦点を絞って、自分の子どもが将来どういう人間になってほしいと各都市の母親が考えているか、３つの特徴をみてみよう。

東京：人間関係の３項目に集中――友人・家族を大切に、他人に迷惑をかけない

第一に、東京の母親は３つの回答――「友人を大切にする人」（74.5%）、「他人に迷惑をかけない人」（71.0%）、「自分の家族を大切にする人」（69.7%）――に集中している。いずれも70%前後という回答率である（**図２－２－１**）。性別でみると、「友人を大切にする人」は男子と女子の間で約10ポイントの差がある。また、「仕事で能力を発揮する人」について、東京以外の都市では、女子が男子より高いのに対して、東京では男子が女子より約５ポイント高くなっている（**図２－２－２**）。

東京以外の都市：「自分の家族を大切にする人」が第１位、第２位以降は都市ごとに特徴あり

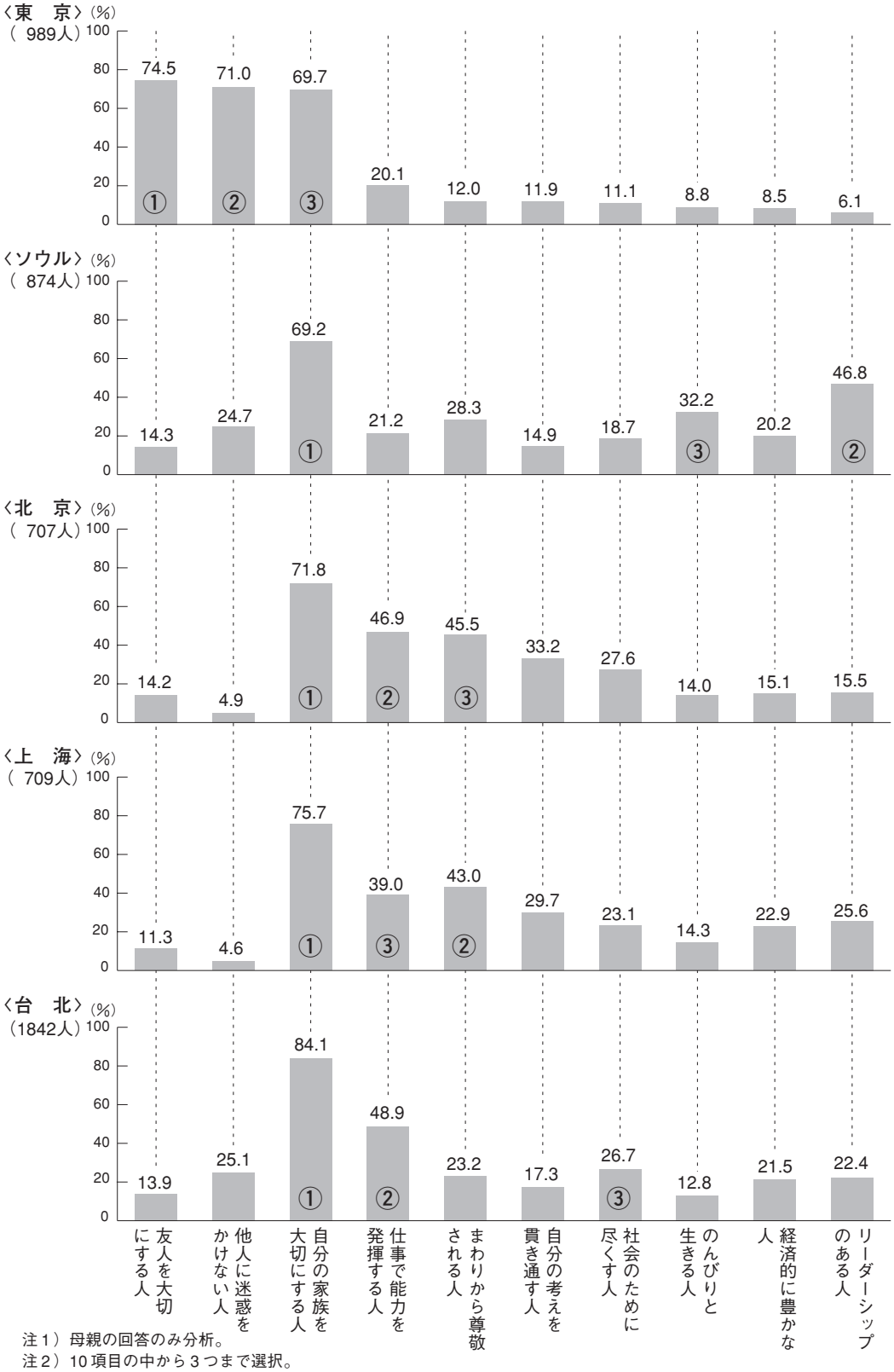
第二の特徴は、東京以外の各都市では、「自分の家族を大切にする人」が大きく他を引き離して第１位の点である。高い順に、台北（84.1%）、上海（75.7%）、北京（71.8%）、ソウル（69.2%）となっている。

第三に、ソウル・北京・上海・台北の母親は、第１位「自分の家族を大切にする人」に次ぐ、第２位の回答はやや異なっている。

北京と上海の回答状況は似ている。北京は、「仕事で能力を発揮する人」（46.9%）、「まわりから尊敬される人」（45.5%）、上海は、「まわりから尊敬される人」（43.0%）、「仕事で能力を発揮する人」（39.0%）の順となっている。

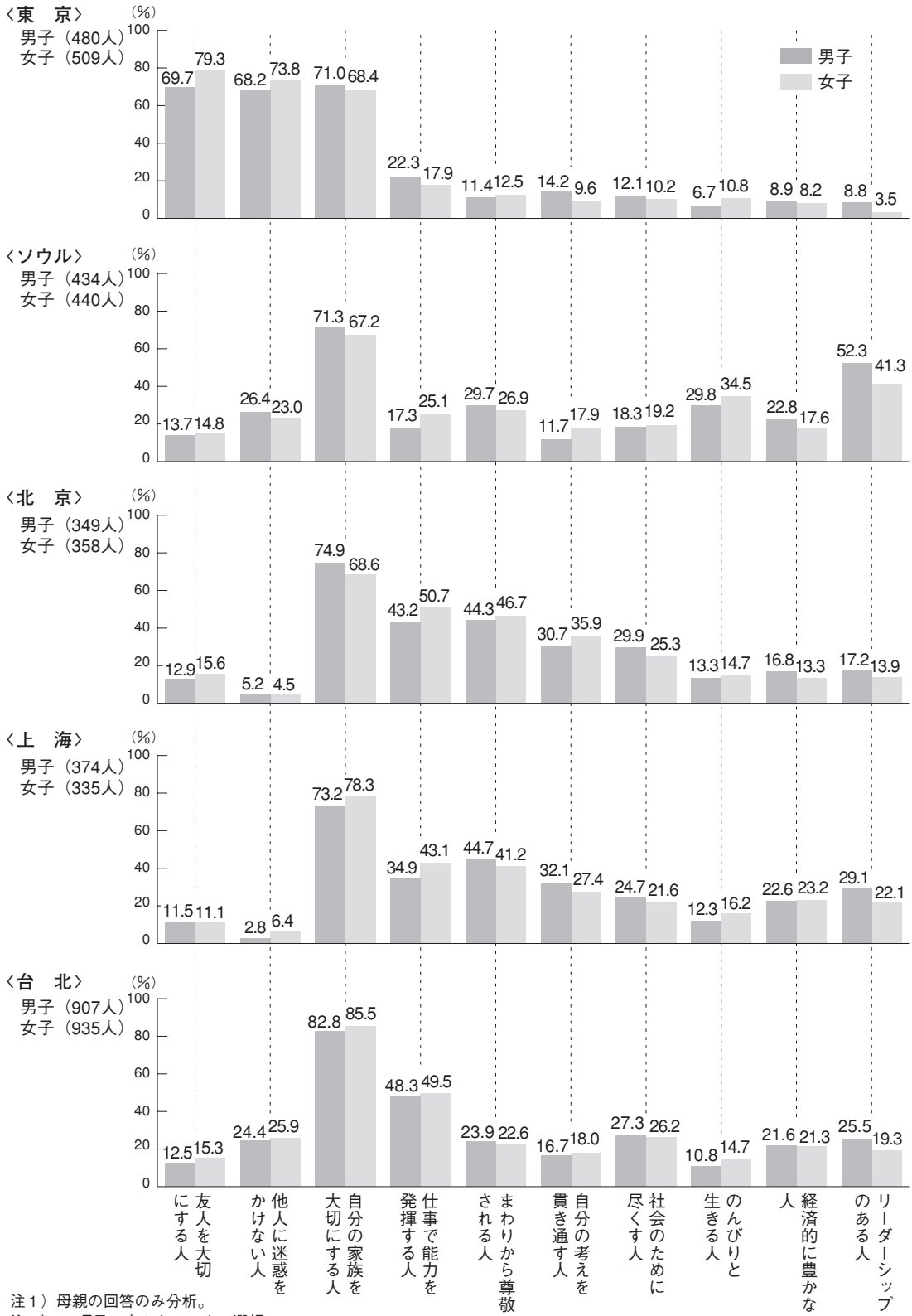
台北は、「仕事で能力を発揮する人」（48.9%）の次に、「社会のために尽くす人」（26.7%）となっている。ソウルは、北京、上海、台北とは異なり、「自分の家族を大切にする人」の後に、「リーダーシップのある人」（46.8%、男子と女子の間に11ポイントの差異）、「精神的に余裕をもってゆっくり生きる人」（32.2%、ソウル以外の都市では、「のんびりと生きる人」となっている）となっている。

■図２－２－１　子どもの将来に対する期待



注１）母親の回答のみ分析。
注２）10項目の中から３つまで選択。
注３）「のんびりと生きる人」について、ソウルでは「精神的に余裕をもってゆっくり生きる人」となっている。
注４）各都市の上位３位までを①②③と表示。

■図２－２－２　子どもの将来に対する期待（子どもの性別）



注１）母親の回答のみ分析。
注２）10項目の中から３つまで選択。
注３）「のんびりと生きる人」について、ソウルでは「精神的に余裕をもってゆっくり生きる人」となっている。

第3節 今、子育てで力を入れていること

東京は他者への思いやり、基本的生活習慣が９割を超える。それに対して、東京以外の都市は、同項目に加えて、それ以外の項目（数や文字、外国語、芸術的な才能など）にも力を入れている。

自分の子どもに対して前節のような将来への期待感を持ちつつ、各都市の母親は、日々の子育てにおいてどのような点に力を入れているだろうか（**表２－３－１**）。

東京は他者への思いやり、基本的生活習慣の数値が高い一方で、東京以外の他都市では、数や文字・外国語の学習も重視。

第一に、東京では、回答が９割を超えているのは「他者への思いやりを持つこと」（97.6％、「とても力を入れている」＋「まあ力を入れている」、以下同様）、「基本的生活習慣を身につけること」（93.3％）である。

第二に、この点と関連して、回答率が90％を超えるもの（表２－３－１の網掛けの部分）をみると、東京は上記の２つであるのに対して、台北は８つ、ソウルは７つ、北京は５つ、上海は３つとなっている。

第三に、数や文字を学ぶ、外国語を学ぶことに対する親の姿勢が、東京とそれ以外の都市では大きく異なっている。とくに、台北における80％前後の母親が数や文字、外国語の学習に積極的な姿勢をみせているのに対して、東京では30ポイント以上も低くなっているのが特徴的である。

第四に、第三点目と同様に、音楽や絵画など芸術的な才能を伸ばすことに対して、台北の母親は84.3％が重視しており、ソウル、北京、上海はいずれも70％台であるのに対して、東京は35.5％と他都市と比べて40～50ポイント近い差があるのが特徴的である。

■表２－３－１　子育てで力を入れていること

（％）

	東京（989人）	ソウル（874人）	北京（707人）	上海（709人）	台北（1842人）
他者への思いやりを持つこと	97.6	96.6	92.9	91.2	98.1
基本的生活習慣を身につけること	93.3	98.8	92.9	90.5	98.8
親子でたくさんふれあうこと	87.5	96.7	90.6	91.4	98.3
身体を丈夫にすること	85.0	97.5	89.6	85.3	94.5
興味や関心を広げること	83.6	95.8	82.6	86.7	93.3
友だちと一緒に遊ぶこと	80.0	94.5	93.0	88.1	94.9
屋外で遊ぶこと	73.6	84.9	90.7	86.8	95.7
自然とたくさんふれあうこと	72.2	97.3	89.2	89.2	96.2
数や文字を学ぶこと	53.5	78.6	73.2	78.3	85.9
芸術的な才能を伸ばすこと（音楽や絵画など）	35.5	77.0	71.9	77.2	84.3
外国語を学ぶこと	29.5	66.1	60.0	69.5	78.9

注１）母親の回答のみ分析。
注２）「とても力を入れている」＋「まあ力を入れている」の％。
注３）ソウル、北京、上海、台北では、「子育てで重視していること」とたずねている。したがって、ここでは「とても重視している」＋「まあ重視している」の％を示している。
注４）「親子でたくさんふれあうこと」について、ソウルでは「親と過ごすこと」、「興味や関心を広げること」について、ソウルでは「関心や才能を支援すること（体験活動など）」、「数や文字を学ぶこと」について、台北では「数・文字・注音符号を学ぶこと」となっている。
注５）網掛けは都市別にみたときに90％以上の項目。

第4節 子どもの進学に対する期待

東京以外の都市では、約５割以上の一定層が自分の子どもに「大学院卒業まで」希望しているのに対して、東京のそれは2.2%と大きな差異がある。

前節では、数や文字、外国語、芸術的な才能を伸ばすことに力を入れているかどうかについて、東京は比較的低いスコアである一方で、それ以外の都市では高いことを確認した。それでは、子どもの進学に対する期待はどうであろうか（**図２−４−１**）。

子どもの性別によって差異が大きい東京

第一に、東京は「大学卒業まで」と回答する比率が最も高いとともに、その性差も大きい。全体では「大学卒業まで」は66.2%であるが、男子は79.0%（「短大卒業まで」0.2%）、女子は53.4%（「短大卒業まで」21.1%）と、男女間の格差が約26ポイント存在している。

以下でみるように東京以外の都市は、多くが「大学院卒業まで」と回答しているが、東京では「大学院卒業まで」は2.2%（男子3.1%、女子1.4%）である。

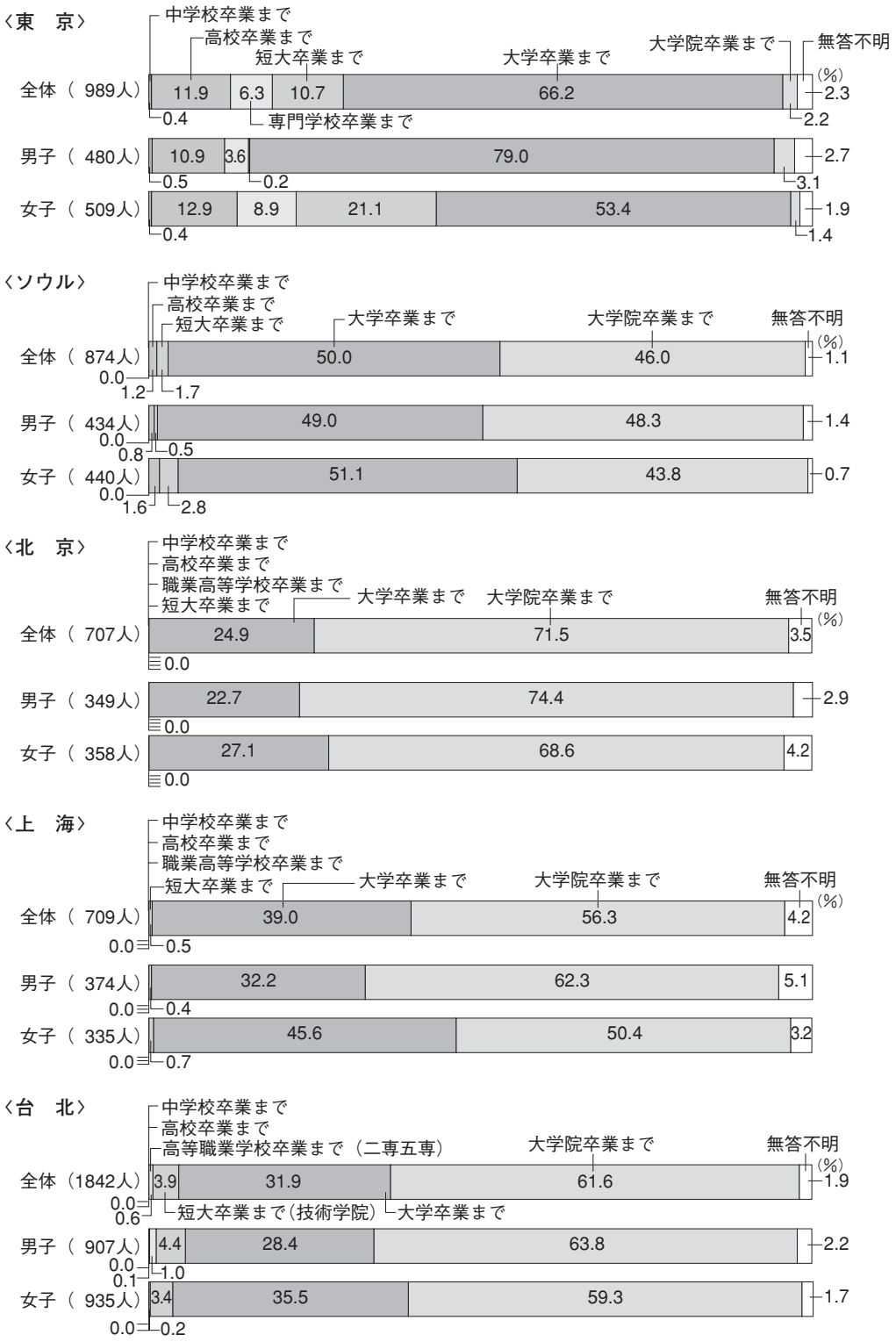
「大学卒業まで」と「大学院卒業まで」が半々のソウル

第二に、ソウルは、数値的にはちょうど東京と北京の中間に位置づけられ、「大学卒業まで」（50.0%）と「大学院卒業まで」（46.0%）が半々となっている。これにはいくつかの解釈が考えられるが、学歴以外の価値の多元化が進行している日本と、その対極にある中国との間にソウルが位置づけられることに加えて、大学卒業後の就職難という韓国独自の労働市場の問題が関係していると思われる。

「大学卒業まで」よりも「大学院卒業まで」が多い北京、上海、台北

第三に、北京、上海、台北では、「大学卒業まで」よりも「大学院卒業まで」が上回っている点が特徴的である。最も高いのは北京であり、男子が74.4%、女子が68.6%となっている。次いで台北であり、性差はあまり大きくなく、男子63.8%、女子59.3%である。一方で上海は性差が大きく、男子は62.3%、女子は50.4%であり、男子よりも約12ポイント低くなっている。

■図２－４－１　子どもの進学に対する期待（全体　子どもの性別）



注１）母親の回答のみ分析。
注２）ソウルは「専門学校卒業まで」に相当する項目をたずねていない。

第5節 子育て意識

ソウル、台北、東京の母親は、自分の「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配」である程度が高い。とくに、ソウルでは約６割の母親が「子どもを育てるためにがまんばかりしている」と突出した回答をよせている。

これまでみてきたように教育・育児に力を入れて、子どもの進学に対する期待を抱いているが、日々の子育てについてはどのように感じているだろうか。ここでは、子育てに対する意識を肯定的な面、否定的な面に分けてみてみることとしたい。

肯定的な項目：各都市とも比率は高いが、台北のみやや低い

第一に、子育てに対する肯定的な意識、すなわち、「子どもがかわいくてたまらないと思うこと」「子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと思うこと」と感じているのは東京、ソウル、北京、上海では90%以上（「よくある」＋「ときどきある」、以下同様）の回答率である（**表２－５－１**）。

その一方で、台北の母親のみが上記の項目について90%を割っているが、「子育てによって自分も成長していると感じること」という項目は５都市の中で台北が最も高く85%を超えている。

第二に、肯定的な感情の中でも、「自分の子どもは結構うまく育っていると思うこと」という項目について、ソウルの母親は約95%と最も高くなっている。その一方で、東京や台北の母親は70%台と20ポイント前後の開きがある。

第三に、性別による違いがあまりみられないことがわかる（**図２－５－１**）。

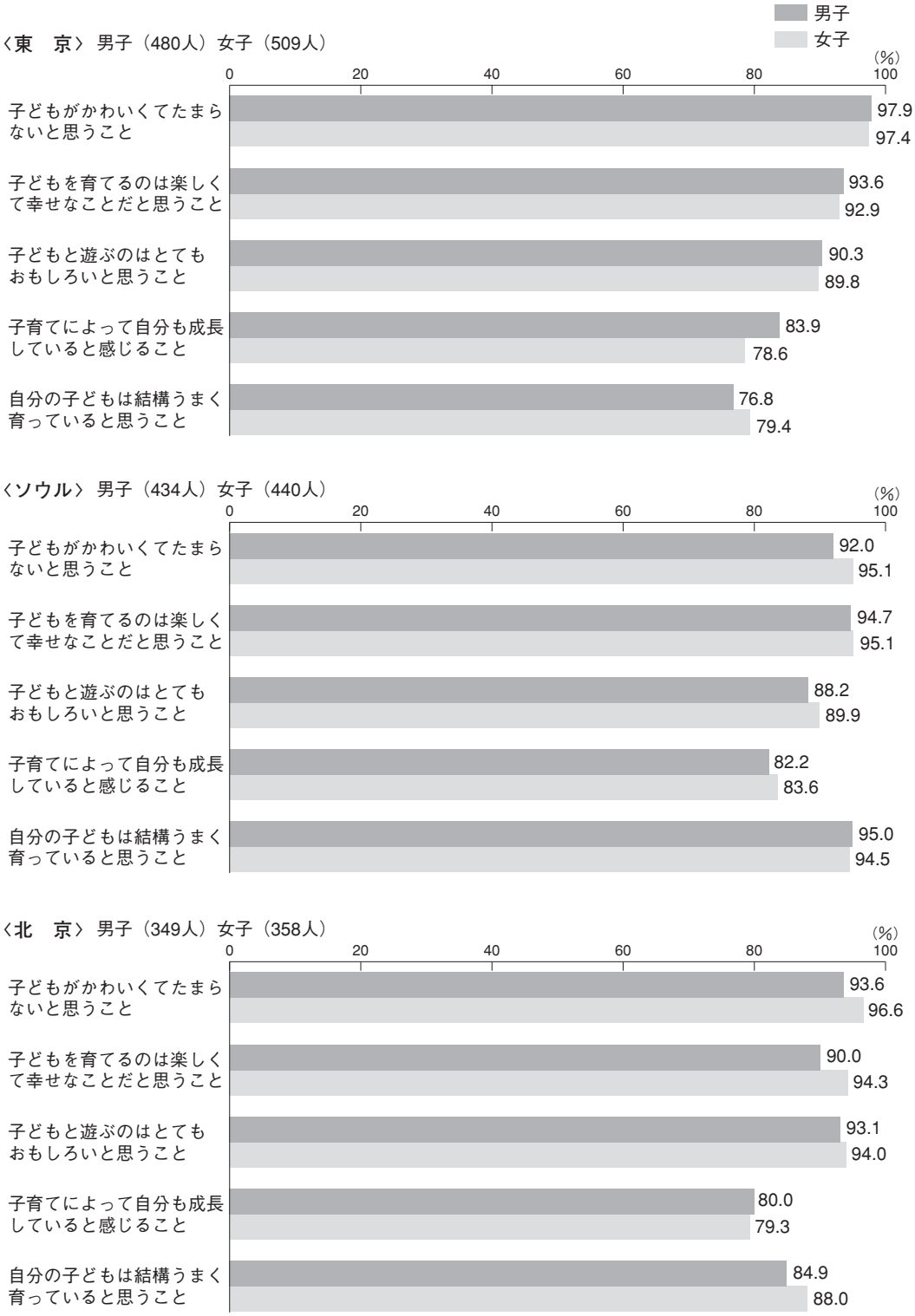
■表２－５－１　子育て意識

（%）

		東京（989人）	ソウル（874人）	北京（707人）	上海（709人）	台北（1842人）
肯定的な感情	子どもがかわいくてたまらないと思うこと	97.6	93.6	95.1	93.5	88.2
	子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと思うこと	93.2	94.9	92.1	90.2	80.8
	子どもと遊ぶのはとてもおもしろいと思うこと	90.1	89.1	93.5	91.0	84.9
	子育てによって自分も成長していると感じること	81.3	82.9	79.6	80.6	85.9
	自分の子どもは結構うまく育っていると思うこと	78.0	94.7	86.5	87.1	71.8
否定的な感情	子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること	67.3	76.0	53.8	50.5	71.7
	子どもに八つ当たりしたくなること	62.3	35.5	11.7	7.0	14.4
	子どもがわずらわしくていらいらしてしまうこと	61.5	41.8	36.3	35.2	54.2
	子どものことでどうしたらよいか分からなくなること	60.2	70.5	73.5	64.4	63.6
	子どもを育てるためにがまんばかりしていると思うこと	35.1	63.1	20.2	26.0	40.1

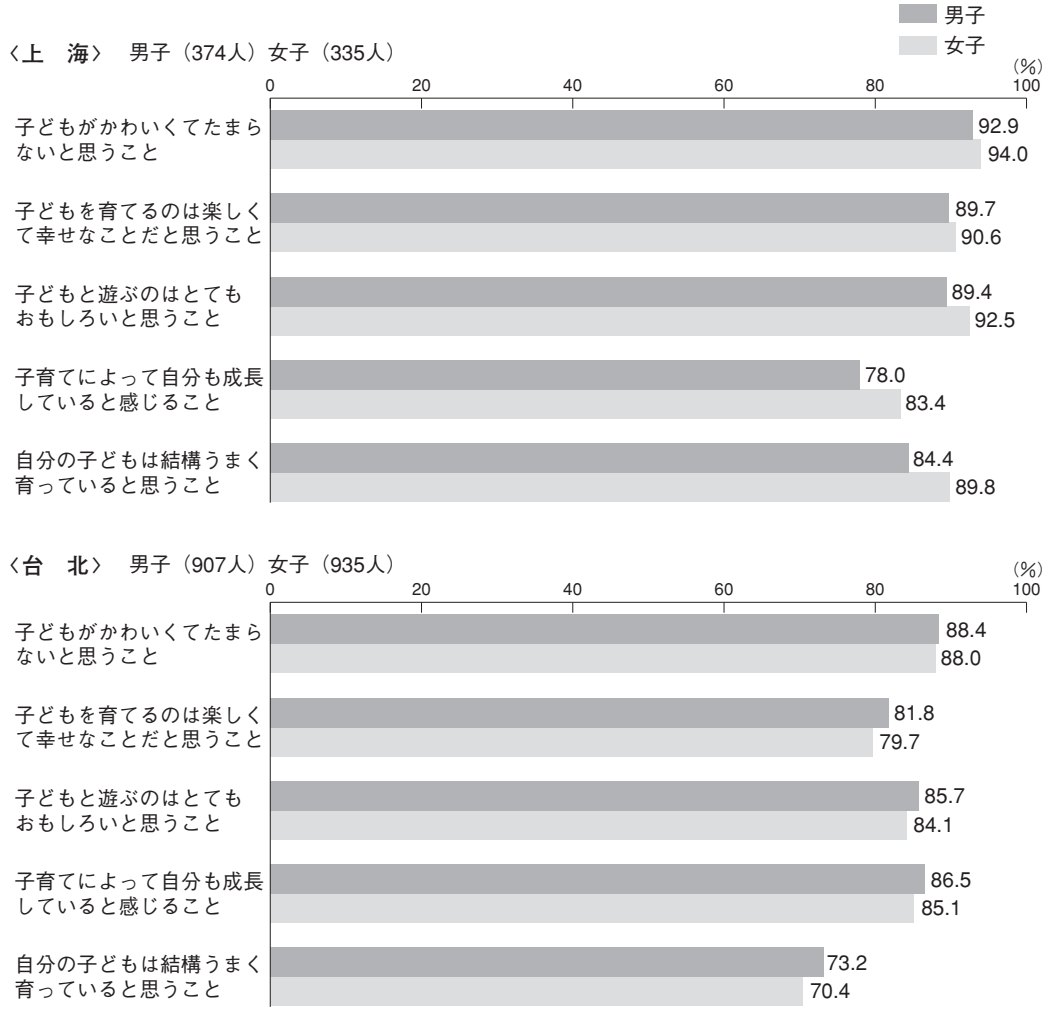
注１）母親の回答のみ分析。
注２）「よくある」＋「ときどきある」の%。
注３）網掛けは都市別にみたときに60%以上の項目。

■図２－５－１　子育て意識・肯定的な感情の項目（子どもの性別）



注１）母親の回答のみ分析。
注２）「よくある」＋「ときどきある」の%。

■図２－５－１　子育て意識・肯定的な感情の項目（子どもの性別）〔続き〕



注１）母親の回答のみ分析。
注２）「よくある」＋「ときどきある」の%。

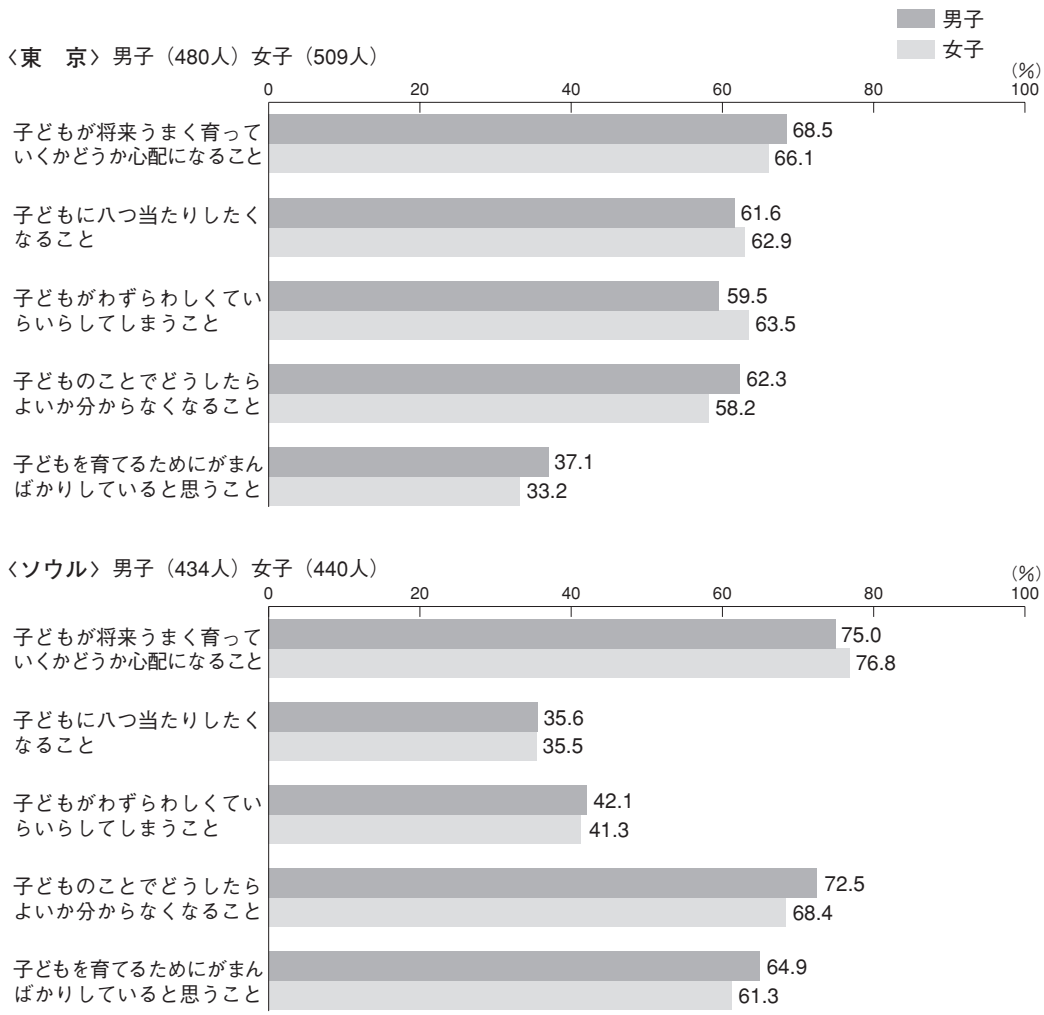
否定的な項目の回答率が高い東京

第四に、その裏返しである、否定的な項目である、「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること」のスコアが、ソウル、台北、東京と高くなっている。

第五に、否定的な側面のあらわれ方が各都市で異なっている。東京は、5つの否定的な項目のうち、4項目について「ある」(「よくある」＋「ときどきある」、以下同様)が60%を超えている。その一方で、北京や上海は「子どものことでどうしたらよいか分からなくなること」のみが60%を超えている。

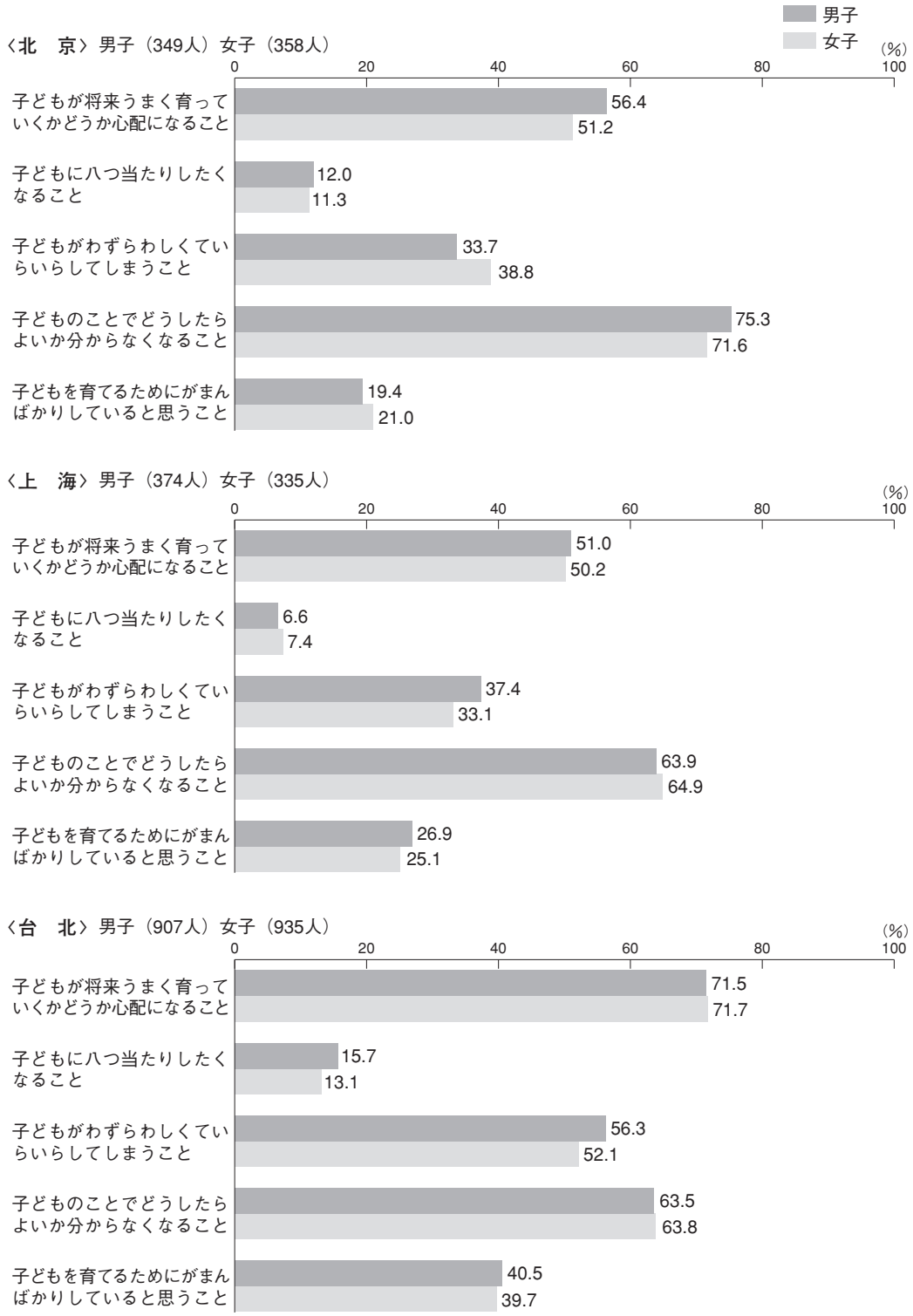
また、台北は、「子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること」「子どものことでどうしたらよいか分からなくなること」の2項目が60%を超えている。ソウルは、その2項目に加えて、「子どもを育てるためにがまんばかりしていると思うこと」も6割を超えている。また、それが5都市の中で最も比率が高く、63.1%と突出している(表2－5－1、**図2－5－2**)。

■図2－5－2　子育て意識・否定的な感情の項目(子どもの性別)



注1)母親の回答のみ分析。
注2)「よくある」＋「ときどきある」の%。

■図２－５－２　子育て意識・否定的な感情の項目（子どもの性別）〔続き〕



注１）母親の回答のみ分析。
注２）「よくある」＋「ときどきある」の%。

第6節 現在の生活と子どもの成長への満足度

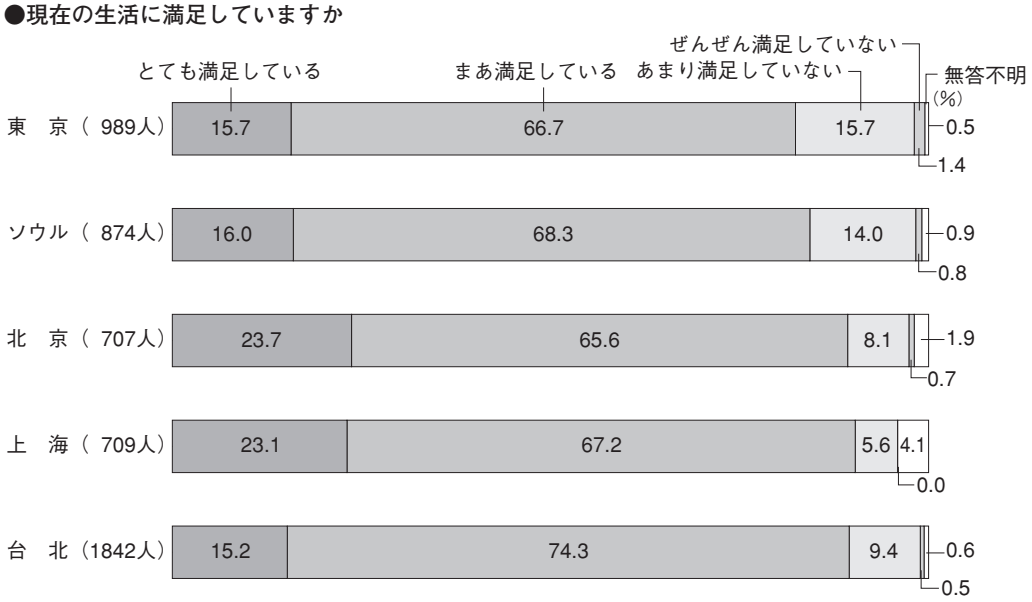
全般的に、生活満足度や子どもの成長満足度は約８～９割と高いが、５都市の中で東京の生活満足度が相対的に低い（82.4%）。また、ソウル・上海以外では、女子の成長満足度のほうがやや高くなっている。

最後に、母親は現在の生活と子どもの成長に対してどの程度満足しているかをみてみよう。

全体として東京の母親の生活への満足度は、82.4%（「とても満足している」＋「まあ満足している」、以下同様）であり、各都市の中で最も低い。つづいて、ソウル84.3%、北京89.3%、台北89.5%、上海90.3%となっている。「とても満足している」だけをみると、北京が23.7%と最も高い（**図２－６－１**）。

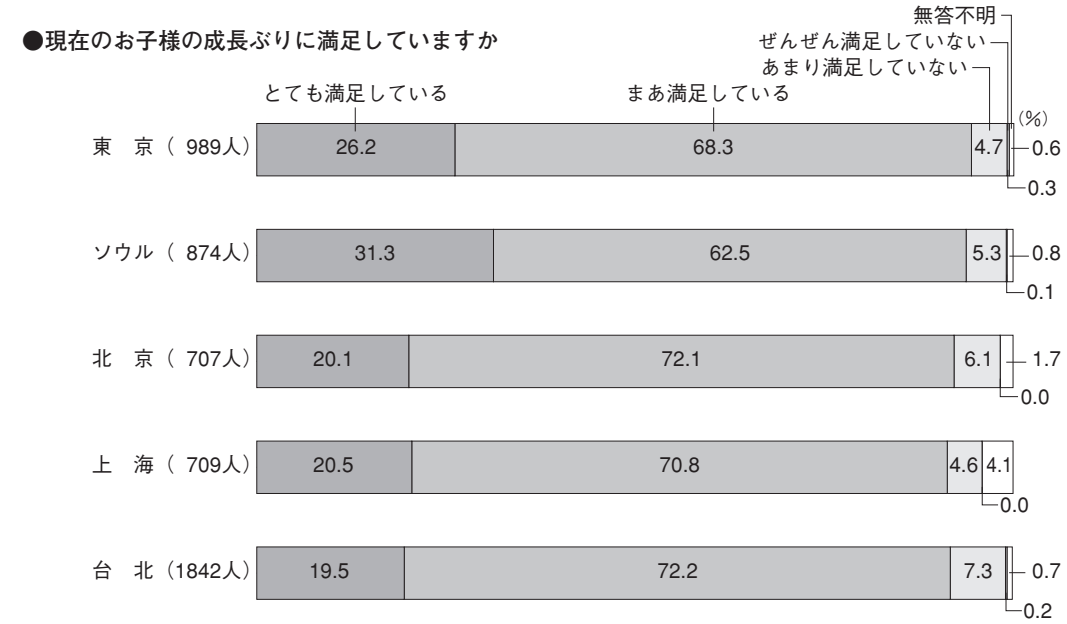
その一方で、子どもの成長に対する満足度については、東京が94.5%で最も高くなっている。つづいて、ソウル93.8%、北京92.2%、台北91.7%、上海91.3%の順になっている。「とても満足している」だけをみると、ソウル31.3%であり、東京26.2%より５ポイントほど高く、子どもの性別でみると、上海以外では、女子に対する成長の満足度のほうがやや高い（**図２－６－２～３**）。

■図２－６－１　現在の生活への満足度



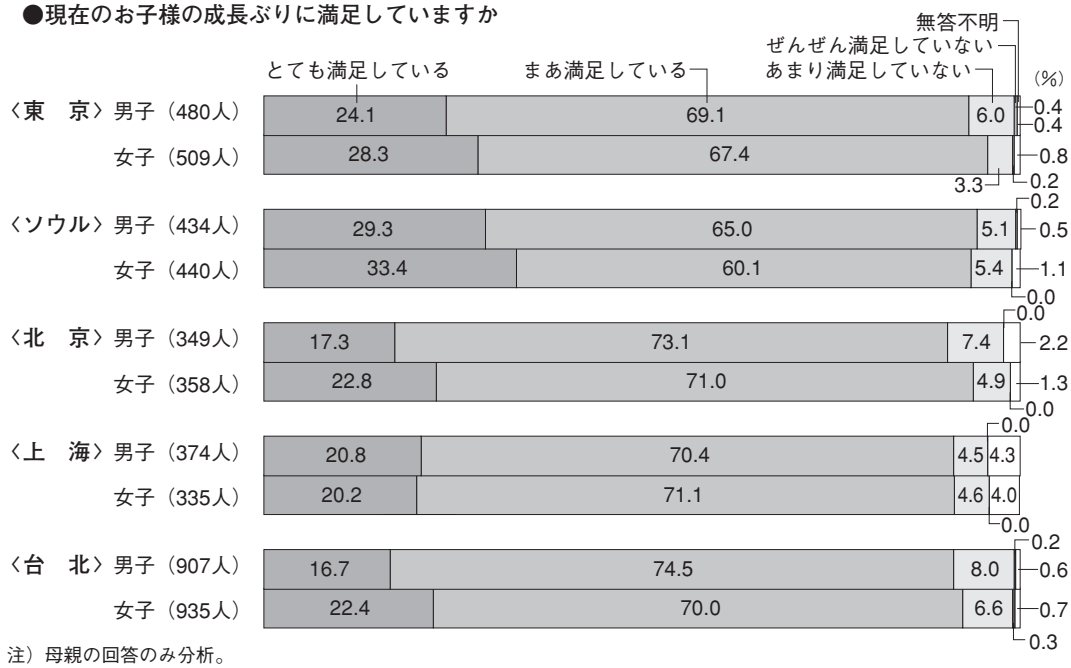
注）母親の回答のみ分析。

■図２－６－２　子どもの成長への満足度



注）母親の回答のみ分析。

■図２－６－３　子どもの成長への満足度（子どもの性別）



注）母親の回答のみ分析。